

令和二年度学生モニター会議（令和2年12月10日開催）のまとめ				
項目	学生の要望等	当日の回答	その後の対応等	
カリキュラム・履修について	1	臨床や心理学、カウンセリングなどの講義を今より充実させてほしい。心理カウンセラーを目指せるコースをつくってほしい。	(学部長) スクールカウンセラーや心理カウンセラーを目指したい人は、大学院心理発達臨床専攻に進学すれば臨床心理士の資格を取ることができる。ただし、公認心理師の資格は愛媛大学で取ることはできない。また、教育学部は教員養成に特化した学部で改組したばかりであり、教員養成を目的としない新たなコースを作ることは難しい。	
	2	今年是对面の説明がなかったせいかもしれないが、履修登録にかなり時間がかかったのもう少し分かりやすくまとめてほしい。	(教務委員長) 具体的に履修登録のどの部分で時間がかかったのか分かれば対応が考えやすいので、知らせて欲しい。1年次学生に対面での説明時間が少なかったのは事実であり、来年度は丁寧に時間を取って説明したい。	
	3	教育実践開発コースにおける連携校実習の連携協力校について、愛媛県内に勤務校がある現職教員は、勤務校での実習を望んでいる。また、居住地を松山に移す方もいるので、勤務校か松山市内の学校か、いずれかを選択できる形をとっていただけないか。	(教育実践高度化専攻長) リーダーシップ開発コースの院生は勤務校に籍を置いて勤務校で実習。それ以外のコースの院生は勤務校を離れて実習。教育実践開発コースの院生も勤務校に籍を置いて、勤務校で実習したい院生の場合は、事前アンケートを取って前向きに検討する。	12/17の教職大学院運営会議にて、実習チームに検討を指示した。
	4	授業でグループ学習・発表が増えてきて、複数人数での話し合いの場がなくて困っている。大学で話し合いのスペースを作ることはできないか。	(学部長) 気持ちはよくわかる。ただし、教育学部としては、実技や実験、実習系の科目が多いことから、先生方が責任を持って感染防御対策を行うことを条件に、できるだけ対面を認めてきた経緯がある。感染者が出た場合は、それらの科目もストップせざるを得なくなるため、学生の感染予防・防止を徹底する必要がある。大学での感染を起こさないためにも、教員による管理は不可欠であり、学生だけでの教室使用を許可することは難しい。	
	5	課題の提出方法についてMoodleや修学支援システムやレポートBOXと提出方法が様々あるが全部の授業で提出方法をMoodleに統一してほしい。Moodle内のカレンダーに期限が表示されるので今より提出忘れが減ると思う。	(教務委員長) 各先生方に学生の要望があったことを伝えることはできるが、課題の提出方法については先生方によって様々な方針があるので、強制的にMoodle利用に統一するのは難しい。なお、授業に関する連絡等はMoodleを通して行うという方針は教員間で共有されている。	既に全教員に周知済み。
	6	コロナ禍でのオンライン授業で単に課題を提出させるだけの講義は作業感が払拭できない。専門知識を持った先生からの具体的な助言や指導がほしい。	(学部長) 学部長の立場からMoodle等を利用して双方向の授業を行うように呼び掛けている。また、先生方も学生の要望を聞いて改善するように努めており、すぐに改善するのは難しいかもしれないが、今後徐々に対応していく。	既に全教員に周知済み。

授 業 に つ い て	7	コロナが増えてきている今に、オンラインから対面になる授業があって、少し不安。	(学部長) 前期において学生同士の繋がりが無いことを深刻にとらえ、後期より対面を増やすようになった。対面にする場合は、感染予防・防止対策を徹底するようにしている。	
	8	非対面で可能と思われる授業が対面で行われている。対面非対面の区別の再考。	(学部長) 4月頃に較べると、非対面の規制が緩和され、現時点ではなるべく対面授業が奨励されている。そのため、先生方の要望によって対面・非対面を行っている。	
	9	リスクが少ない授業でも非対面で行われている。対面授業と非対面授業の判断基準が分からない。	(学部長) 学生から見てリスクが少ないと判断しても、そうとは言い切れない場合が多々ある。現時点では、先生方の要望によって対面・非対面の授業を行っている。	
	10	大学生活において様々な制限をかけている状況の中で、様々な授業形態が行われている。それぞれの授業がそれ相応の授業形態になっているかを学部を問わず検討してほしい。	(学部長) 教育学部では、感染防御対策を徹底することを条件に先生方の要望によって授業形態を決めている。ただし、他学部の授業形態についてまで口を出すことは越権行為となるため難しい。	
	11	遠隔授業やムードルで示された課題の取組だが、個人の力量に任すのではなく、質や量をどこまですべきなのか、具体的な指示や学生間で協議する時間がほしい。	(教育実践高度化専攻長) 今後のオンライン授業において、指示を明確に出すことと、協議の場を積極的に設けることを心がけるようにする。	12/17の教職大学院運営会議にて、「課題に係る指示の明確化」「課題量への配慮」について、授業担当者に依頼した。
	12	講義の形態(同期型、非同期型)の連絡が、当日届くことが数回あった。少なくとも前日の夕方までに、連絡をほしい。	(教育実践高度化専攻長) 今後なるべく早く講義の連絡を行うようにする。	12/17の教職大学院運営会議にて、該当講座より、改善の意思表示があった。
授 業 に つ い て	13	講義中の調べ物としてのスマートフォンの使用の全面的な許可をしてほしい。	(学部長) 先生方によって考え方が異なるため、スマートフォンを全面許可するように指示することはできない。ただし、そうした意見があったことについては、先生方に伝えたい。	既に全教員に周知済み。
	14	コロナ禍によって学校設備を十分に使用できなかったり、講義が非同期でしか受けられなかったりしたことに対する学費を一部返還してほしい。	(学部長) この1年だけではなく、4年間トータルでの利用を考えてほしい。また、学費を支払って学生が得ているものの中で、授業や施設利用はほんの一部に過ぎない。しかも、全国的に見れば、愛媛大学はまだそれらを利用できている方である。学生として大学に所属していることで得られるものはもっと大きいということを知っておいてほしい。制限がある中でもできることはあるので、現在利用できることを最大限に利用してほしい。授業が非同期であることを理解し、非同期だから手間がかかっていないという考えをしないでほしい。	

学 習 環 境 に つ い て	15	改修工事のため自学自習用のスペースがないので何とかしてほしい。改修工事の騒音で耳に支障が出たり、授業や先生との面談時などの妨げになっている。	(学部長) 3月に工事が終わるまで我慢してほしい。	
	16	音楽では研究室で勉強することが多かった。現在研究室が利用制限されている。利用制限緩和をしてほしい。	(学部長) 音楽講座の教員方と検討させていただく。	
	17	試験のための弾き歌い練習が家では難しいため、就職試験の際は、短時間でもピアノ練習室または保育観察室にあるピアノ及びキーボードの利用を可能にしてほしい。	(学部長・青井先生) 本年度もなるべく利用できるように対応したので、連絡してほしい。来年度からも感染状況に応じて利用してもらおう。	
	18	4階のM2院生控室と同様に、2階のM1院生控室に裁断機の設置を望みます。	(教育実践高度化専攻長) 来年度購入する。	購入・配置手続き中。
	19	授業において電子黒板やデジタル教科書に触れる機会が欲しい。	(教育実践高度化専攻長・大西先生) 現在置かれている電子黒板をもっと利用できるようにする。また2号館にもICTルームができるので利用してほしい。デジタル教科書も購入を検討する。年明け1月23日に附属の岡田先生によるICT支援の授業が行われるので、是非参加してほしい。	大西先生と吉村先生が、年度内に電子黒板・デジタル教科書を使った学習機会を教職大学院生に提供する。 12/17の教職大学院運営会議にて、ICTクラスルーム等を活用した、電子黒板・デジタル教科書利用促進を依頼した。
	20	院生室のパソコンとプリンターの接続が切れることがよく起こるが、原因が分からないためコピーをする際に違うパソコンに移る必要がある。	(教育実践高度化専攻長) ただちに改善する。	
進 路 ・ 就 職 に つ い て	21	本館3階実践分析室を利用できる鍵が教科領域コースの院生室には置かれていないので、教科領域コースの院生室にも鍵を設置してほしい。	(教育実践高度化専攻長) 年内には鍵を置くようにする。	カギは実践分析室の前のキーボックスに入っているので、このことを学生に周知した。
	22	定期的な進路調査と相談の機会が欲しい。	(総務委員長) 学生への連絡が足りていなかった。就職支援課では、毎日就職相談を行っているのでは非利用してほしい。大学院生への対応もこれから充実させたい。	
	23	このコロナの状況が続く場合、来年受ける教育実習などは十分に受けられるのか。今年度中止になったふるさと実習はどうなるのか。	(実習委員長) 現在のところ、今年度同様の実習を考えている。また今年度中止になった実習についても来年度は円滑に行うように計画している。ただし、コロナ禍がどうなるか分からないので確約はできない。	
実 習				

習 に つ い て	24	介護等体験が中止になったことを受けての質問。	(実習委員長) 今年度は実際に体験できなかったのは申し訳なく思う。それに変わる代替措置を国の指示に従って行った。	
	25	連携校実習についてですが、実習校訪問を実施していない教員がいる。	(教育実践高度化専攻長) そういうことがないように適切に指導する。	12/17の運営会議にて、注意喚起を行った。年度内に、該当者に対して、専攻長より個別指導を行う。
そ の 他	26	今年は先輩後輩と部活やサークル以外で交流する機会が無かったため、来年はその様な交流イベントを増やして欲しい、イベントや行事の開催を希望する。	(学部長) 大学側も努力するが、学生側も積極的に企画を考え、実行してほしい。	
	27	学外近辺にタバコを吸っている人へ禁煙を徹底してほしい。	(学部長) 全面的に禁止することはできない。本学の職員が巡回したり、看板を立てたりすることで、受動喫煙防止の対策を行っている。	
	28	冬の時期は寒く、また2・3限の間に家に帰るのが難しいため、可能であれば学食以外で買ったお昼ご飯を食べられる部屋を開放してほしい。	(学部長) 現在共通講義棟101号室を開放している。今後そのような部屋を増やしてほしい場合は、その要請を受けて考える。	
	29	大学院2回生との交流の場を増やしてほしい。	(教育実践高度化専攻長) 今年度もまだ交流イベントを考えている。感染防止を徹底させながら、なるべく例年通りに近づけるようにするつもりである。	次年度の新入生ガイダンスを30分延長し、コース別にM1のM2の顔合わせの時間をとることとした。